

# 令和元年8月27日～28日の降雨における 大山ダムの防災操作の効果について

筑後川水系赤石川の大山ダム（大分県日田市）流域では、西日本付近にのびる前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発になった影響により断続的な降雨がもたらされ、降り始めから8月28日12時までの総雨量は、流域平均で約201mmとなりました。特に、28日5時から6時までの時間雨量は、約40mmを記録しました。

この降雨により、大山ダムでは防災操作※を行い、ダムに流入する水の量は最大毎秒約122立方メートルに対して、約6割に当たる毎秒約75立方メートルの水を貯留して、ダム下流の河川水位を低減しました。

具体的には、大山ダムの下流にある小<sup>こぶち</sup>淵地点における水位は、8月28日9時40分頃に最大となり、ダムに水を貯めたことで、ダムが無かった場合に比べて約0.02mの水位低減効果があったと考えられます。

※ 防災操作：大雨により、ダムに流れ込む水の一部をダムに一時的に貯め込んで、ダムから下流に流す量を減らし、下流の川の水位を低減させる操作

今回の発表は速報値であり、数値等は今後の調査により変わることがあります。



令和元年8月29日

独立行政法人水資源機構 筑後川局  
大山ダム管理室

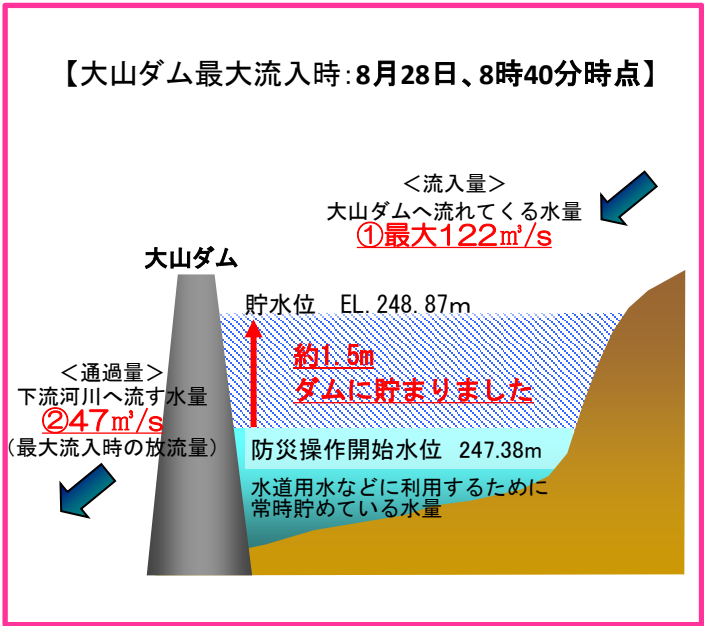
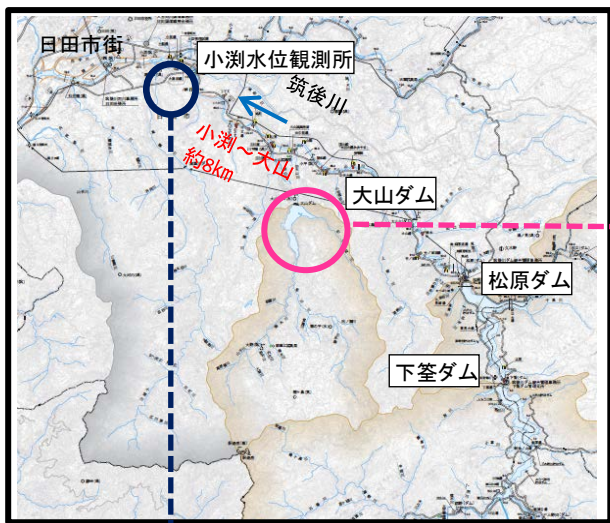
## 発表記者クラブ

国土交通省九州記者会  
九州建設専門記者クラブ  
久留米市政記者クラブ  
日田市政記者クラブ

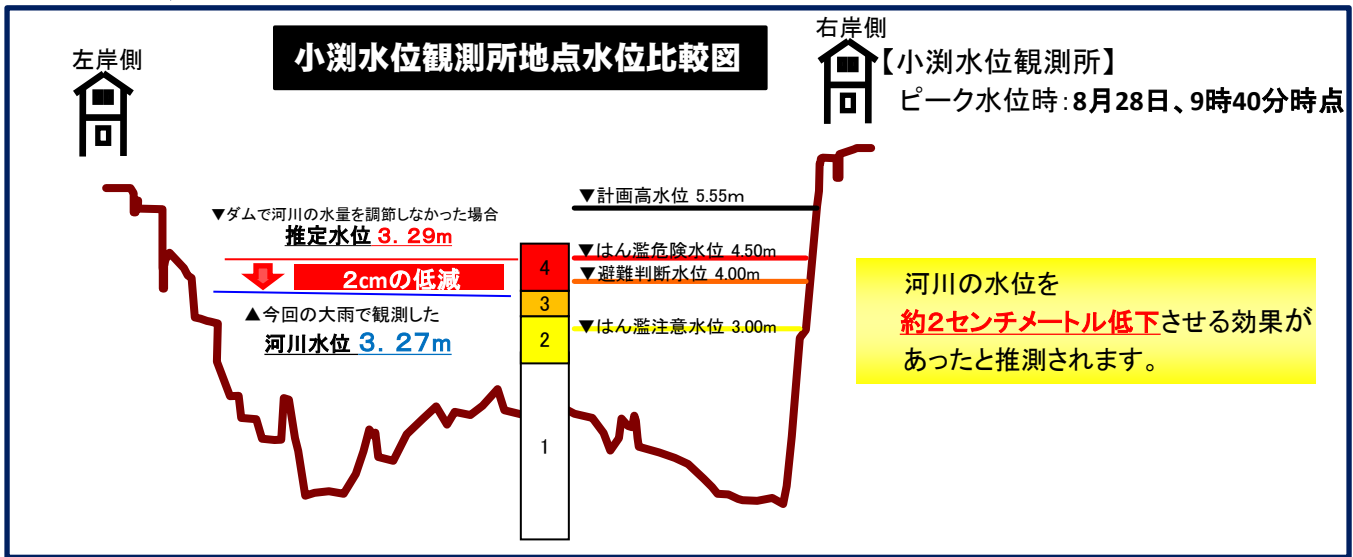
## 問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 筑後川局 総務課長 <sup>なかやま</sup> 中山  
住 所： 福岡県久留米市東町42-21  
電 話： 0942(34)7001(代表)

# 大山ダムの操作状況図



ダムへ流れてくる水量の  
**約6割低減**させて流しました。  
※約6割≒1 - (②÷①)



値は暫定値のため、確定値ではありません

## 防災操作による大山ダム貯留状況

